

# 電力小売全面自由化の進捗状況

2017年10月24日

資源エネルギー庁

# 低圧分野のスイッチングの状況①（2017年7月時点）

- 本年7月末時点での新電力への契約先の切替え（スイッチング）件数は約6.5%（約404万件）、大手電力（旧一般電気事業者）の自社内の契約の切替件数（規制→自由）は約4.7%（約297万件）であり、合わせて約11.2%（約701万件）となっている。
- スwitching率を地域別に見ると、東電管内（9.3%）が最も高く、次いで関西（8.6%）となっている。スイッチング率が低いのは、中国（1.4%）や北陸（2.0%）となっている。

スイッチング（みなし→新電力）件数（7月末）

管内	他社切替実績 【単位：万件】	率 ※ 【単位：%】
北海道	19.0	6.9
東北	14.5	2.6
東京	213.5	9.3
中部	33.3	4.4
北陸	2.4	2.0
関西	87.0	8.6
中国	5.0	1.4
四国	4.4	2.2
九州	24.6	4.0
沖縄	-	-
全国	403.6	6.5

自社内契約切替（みなし規制→みなし自由）件数（7月末）

管内	自社内切替実績 【単位：万件】	率 ※ 【単位：%】
北海道	0.9	0.3
東北	3.3	0.6
東京	76.8	3.3
中部	112.4	14.8
北陸	1.5	1.2
関西	40.9	4.1
中国	39.6	11.3
四国	7.2	3.7
九州	14.1	2.3
沖縄	0.1	0.2
全国	296.9	4.7

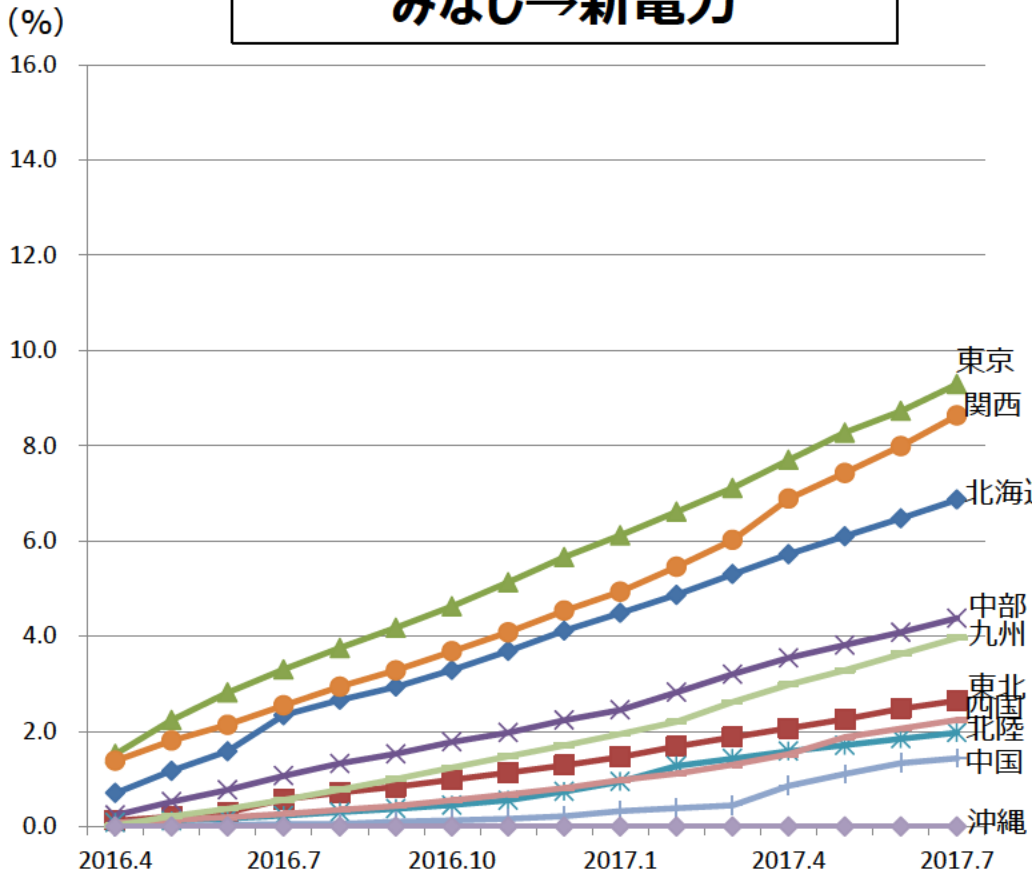
（出所）電力取引報

※ 2016年3月の一般家庭等の通常の契約口数（約6,253万件）を用いて試算。なお、2016年3月の低圧の総契約口数は約8,600万件だが、旧選択約款や公衆街路灯の契約などは、実態としてスイッチングが起きることが想定されにくく、母数から除外。また、同一需要家による供給事業者の変更や、旧一般電気事業者の規制料金・自由料金メニュー間での契約種変更は、複数回行われた場合、その都度、スイッチングとしてカウントされることに留意。

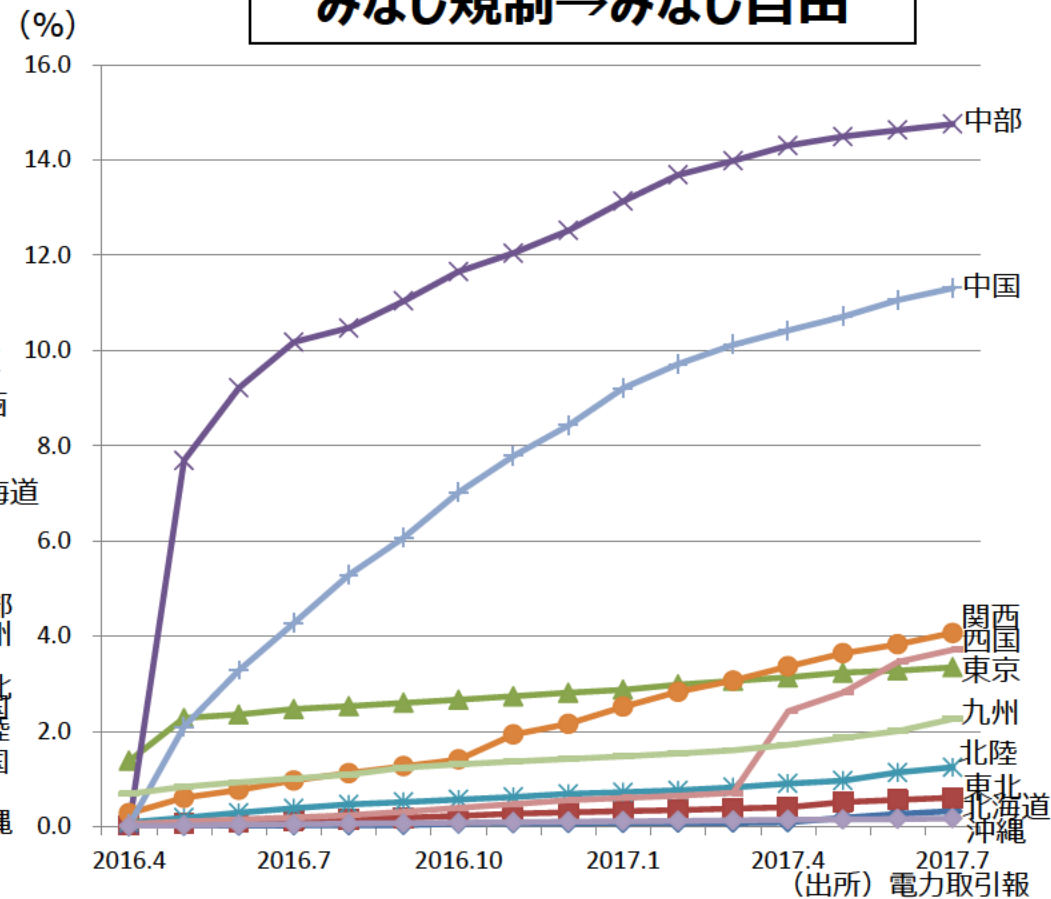
# 低圧分野のスイッチングの状況②（地域別のスイッチング率の推移）

- 新電力への契約先の切替え（スイッチング）率は、沖縄管内を除き、堅調に推移。
- みなし自由への切替率（規制→自由）は、伸びは鈍化しつつあるも中部と中国が特に高いほか、関西と四国の伸び方が相対的に加速化している。

みなし→新電力



みなし規制→みなし自由

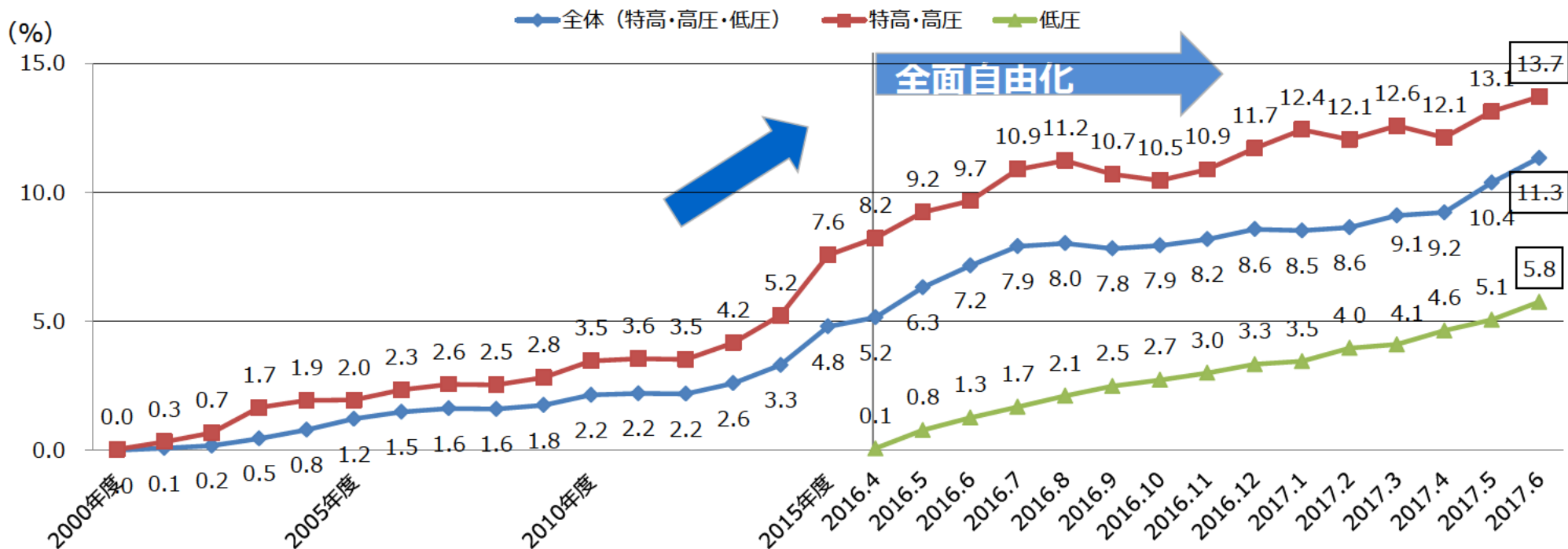


※ 2016年3月の一般家庭等の通常の契約口数（約6,253万件）を用いて試算。なお、2016年3月の低圧の総契約口数は約8,600万件だが、旧選択約款や公衆街路灯の契約などは、実態としてスイッチングが起きることが想定されにくく、母数から除外。また、同一需要家による供給事業者の変更や、旧一般電気事業者の規制料金・自由料金メニュー間での契約種変更は、複数回行われた場合、その都度、スイッチングとしてカウントされることに留意。

# 新電力のシェアの推移①（電圧別）

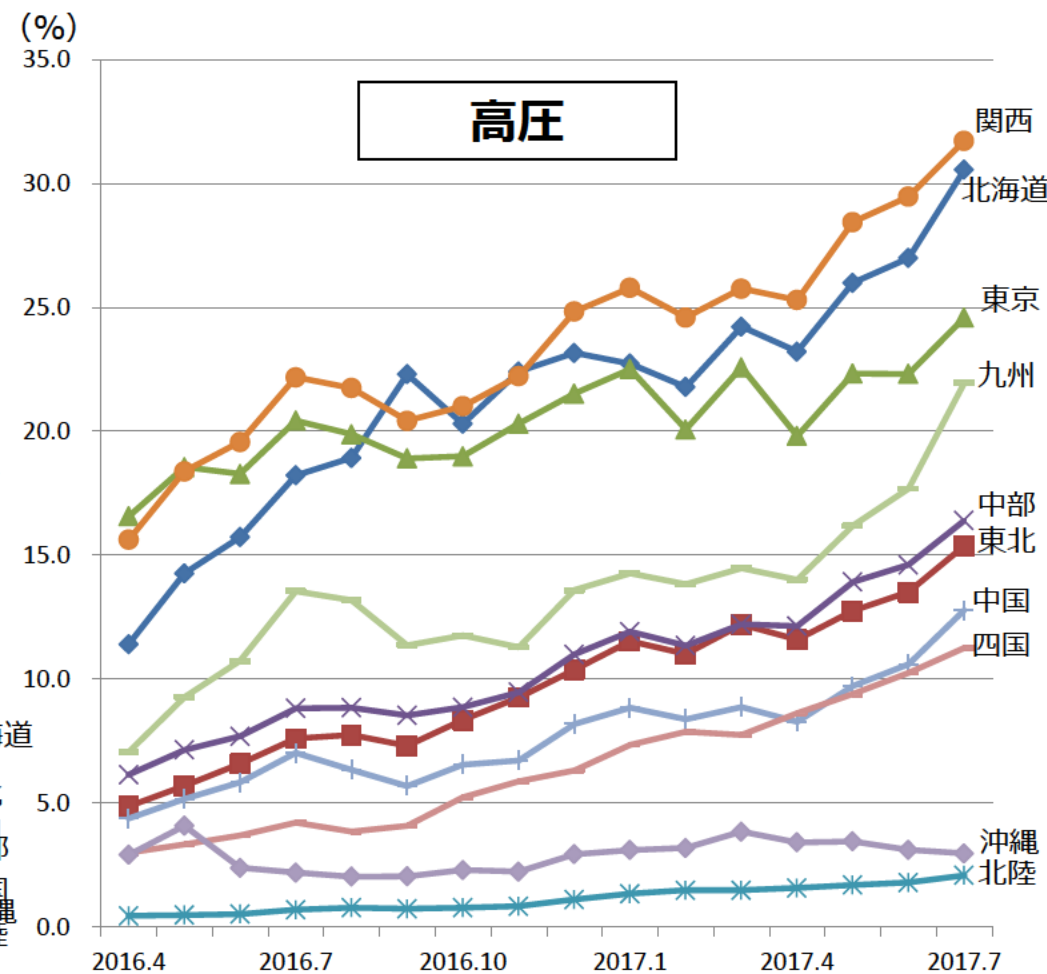
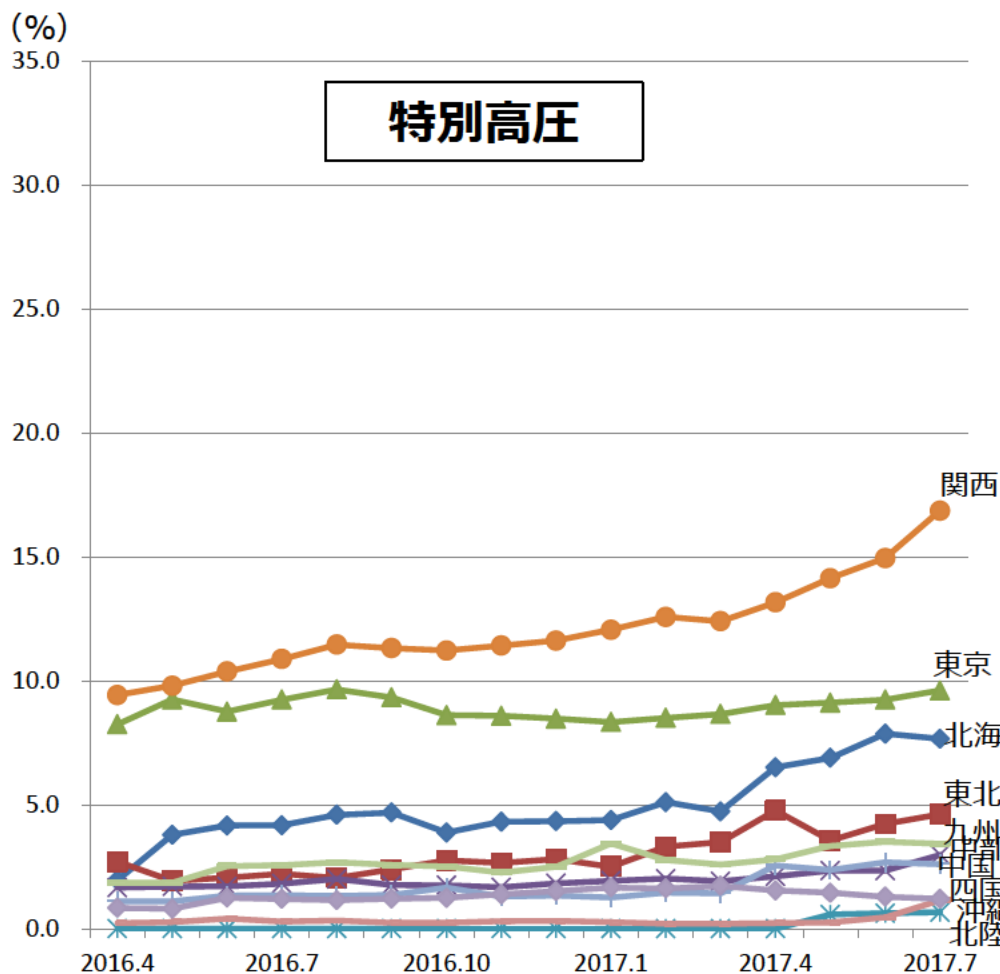
- 2000年の部分自由化以降、10年以上にわたり、特別高圧・高圧分野（大口需要家向け）における新電力のシェアは2～3%程度にとどまっていたが、2014年度から大きく上昇し、昨年7月以降は10%を超えている。
- 昨年4月に自由化された低圧分野の新電力のシェアは約6%となっており、既自由化分野と合わせた全体に占める割合は約11%となっている。

## 新電力シェアの推移



# 新電力のシェアの推移②（地域別）

- 2016年4月以降の新電力のシェアは、高圧分野における伸びが顕著であり、ほとんどの地域で上昇傾向にある。
- 他方、特別高圧分野においては、関西と北海道以外はほぼ横ばいとなっている。

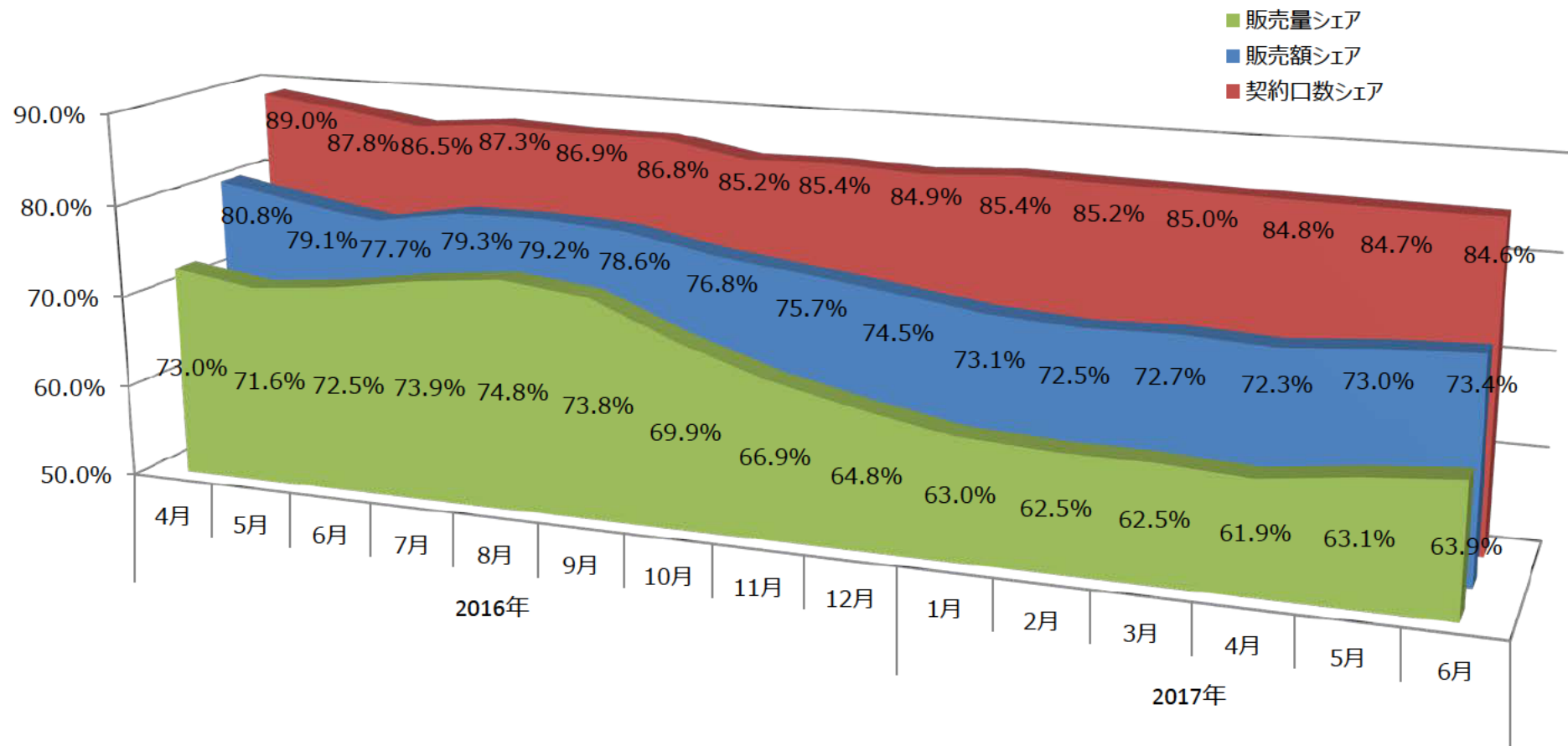


# (参考) 低圧分野における規制料金の割合

- 2016年4月の小売り全面自由化以降、基本的には自由料金の比率が増加し、規制料金の比率は低下している。低圧分野合計の規制料金メニューの割合は、2017年6月現在で、販売量ベースで63.9%、販売額ベースで73.4%、契約口数ベースで84.6%となっている。

※自由料金には、2016年3月末時点における旧選択約款に基づく電力供給実績を含む。

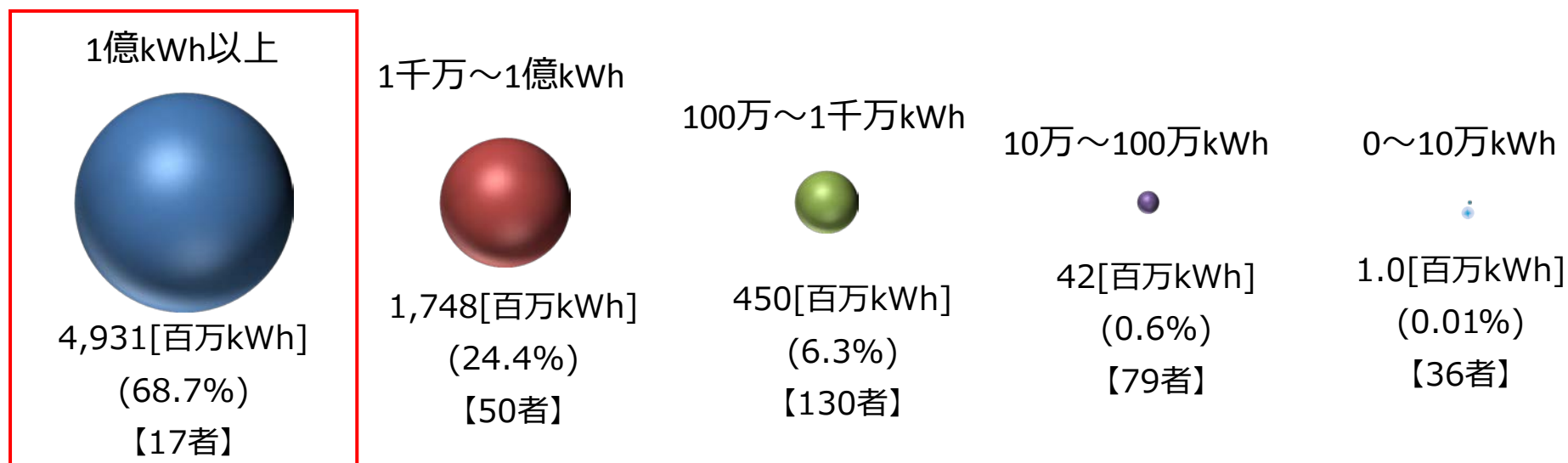
## 規制料金メニューの割合（全国・低圧（電灯・電力合計））



# 新電力の数・販売規模

- これまでに登録を受けた小売電気事業者数は、計422者（今月12日現在）。
- 本年6月に供給実績のあった新電力312者のうち、販売規模が1億kWh/月以上の事業者は17者（全体(391者)の4%程度）であり、これら17者の供給量は全体の約7割を占める。

## 新電力の販売規模（2017年6月）



- ・エネット
- ・F-Power
- ・J X T G エネルギー
- ・テプコカスタマーサービス
- ・丸紅新電力
- ・東京ガス
- ・サミットエナジー
- ・オリックス
- ・日本テクノ
- ・エナリス・パワー・マーケティング
- ・ダイヤモンドパワー
- ・K D D I
- ・ミツウロコグリーンエネルギー
- ・新日鉄住金エンジニアリング
- ・大阪瓦斯
- ・伊藤忠エネクス
- ・エネサーブ

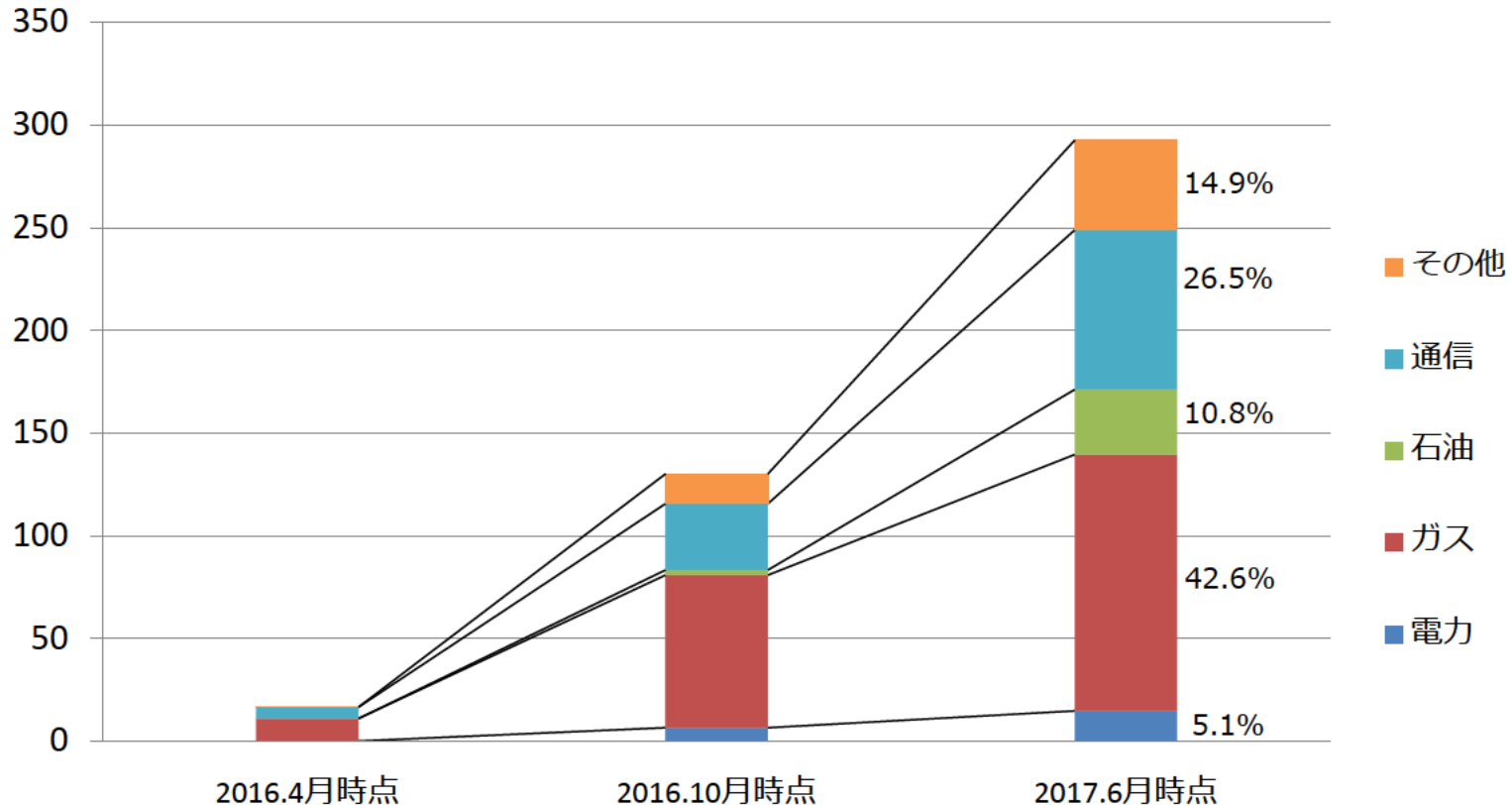
# 新電力の業種別類型

- 小売全面自由化後に低圧分野に参入した新電力のうち、契約口数上位20者を資本関係等から大まかに業種別に分類すると、本年6月時点でのシェアは、ガス分野が約4割、通信分野が3割弱、石油分野が約1割を占めている。

## 低圧供給上位20者（※）の業種別口数推移

契約口数（万口）

※ただしみなし小売電気事業者及びその子会社は除く

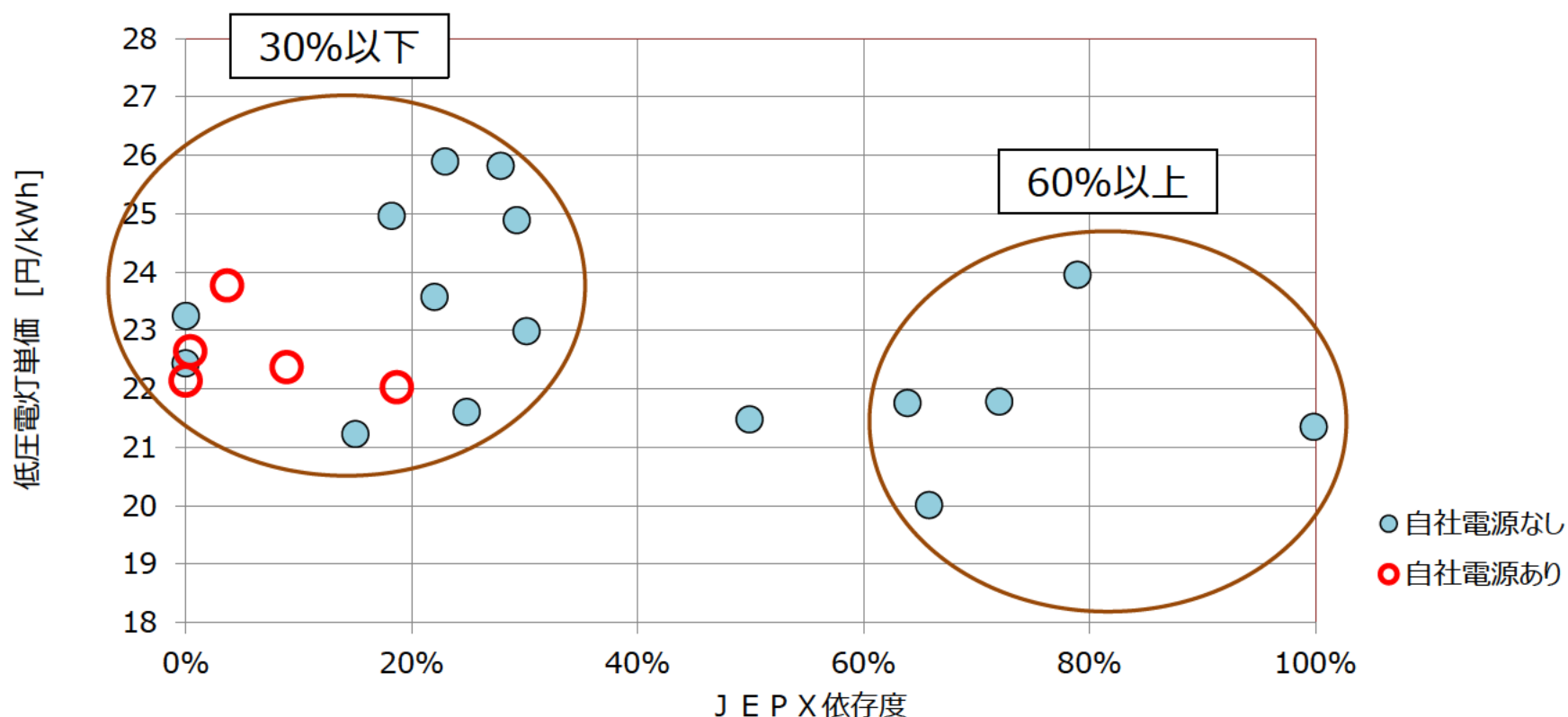




# 新電力の電源調達（市場依存度）

- 低圧電灯の契約口数が千件以上の新電力が電源調達する際の市場への依存度は、「30%以下」と「60%以上」に二極化している。
- 自社で電源を持っている新電力の市場依存度は低い。

調達電源のJEPX依存度と低圧電灯単価の相関



※ JEPX会員かつ低圧電灯契約口数1,000件以上に限定（2017年6月実績）

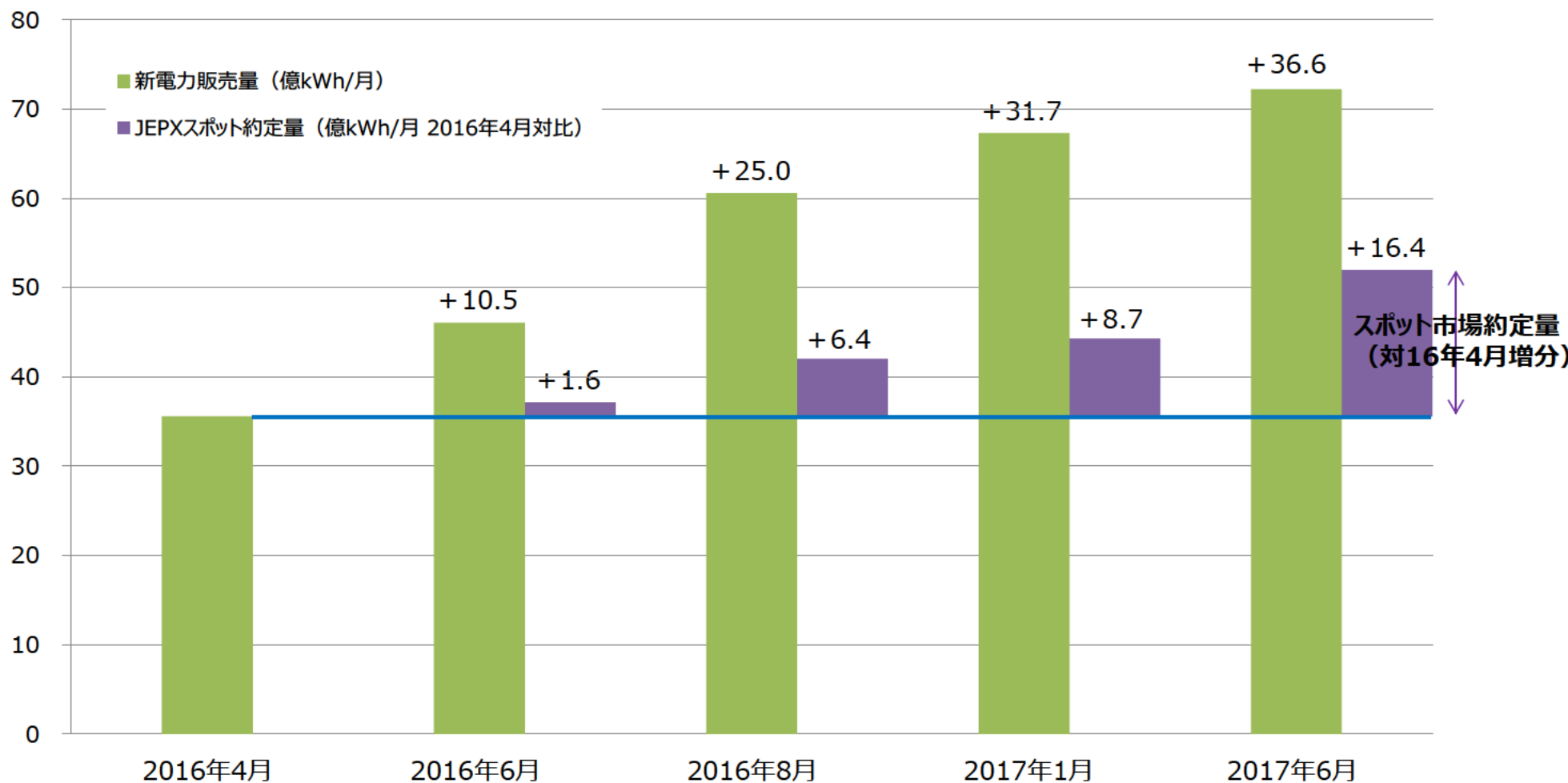
（出所）電力調査統計、電力取引報

# (参考) 新電力の販売電力量とスポット市場約定量

- 新電力の販売電力量は、2016年4月実績比で約36.6億kWh/月増加(2017年6月時点)しており、その間、卸電力取引所のスポット市場約定量は、その半分に相当する約16.4億kWh増加している。

(億kWh/月)

新電力の販売電力量とJEPXスポット市場約定量（16年4月対比）の推移



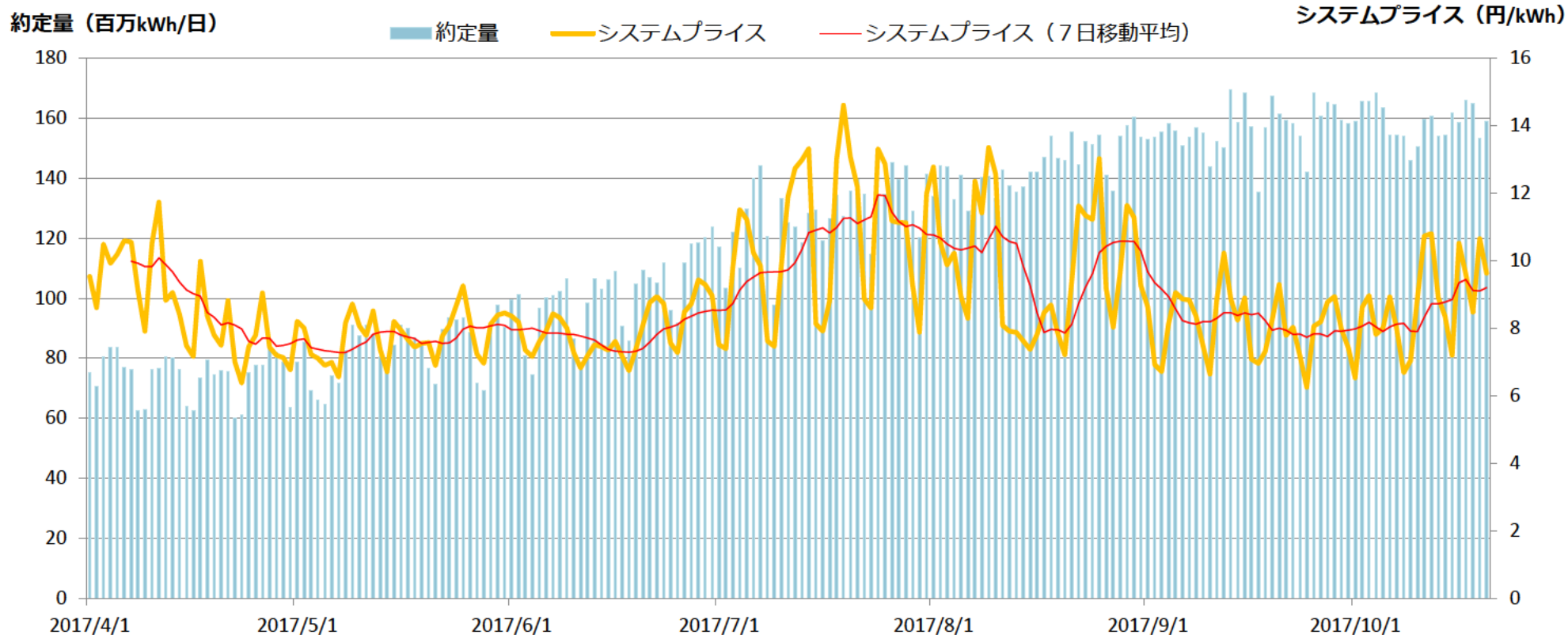
# 卸電力取引所の取引の状況

- 昨年4月の小売全面自由化以降、卸電力取引所の取引量は大幅に増加。特に、本年8月中旬以降は、一日の取引量が1.5億kWhを超えることが多くなっている。

※今年度上期（4月～10月）の取引量は前年同期比で約2倍となっており、9月13日には過去最大の約1.7億kWh/日を記録した。（4月以降の取引量増の背景としては、グロス・ビディングが一因と考えられる）

- 1kWh当たり取引価格は、4月～6月は平均7～10円台で推移し、7月～9月は平均8～12円台で推移。足元は横ばいから若干上昇傾向にある。

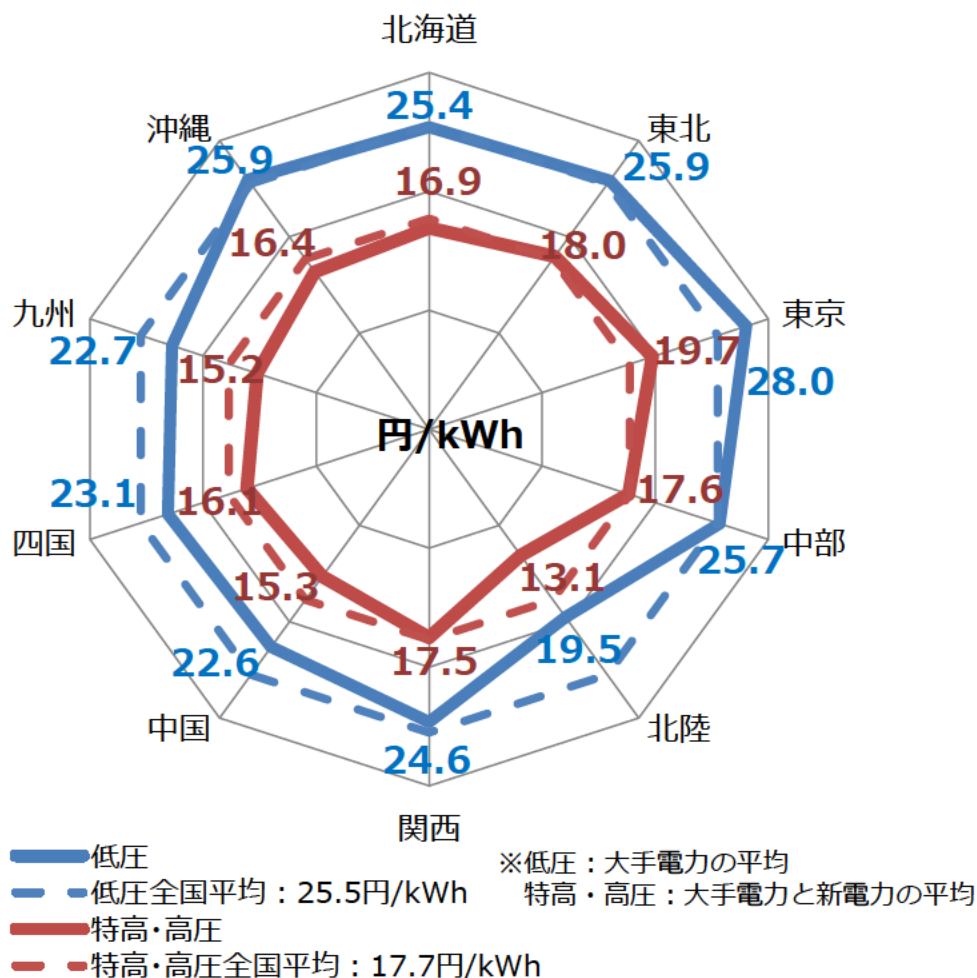
## 卸電力取引所の取引量・取引価格の推移（スポット市場 2017/4/1～10/20）



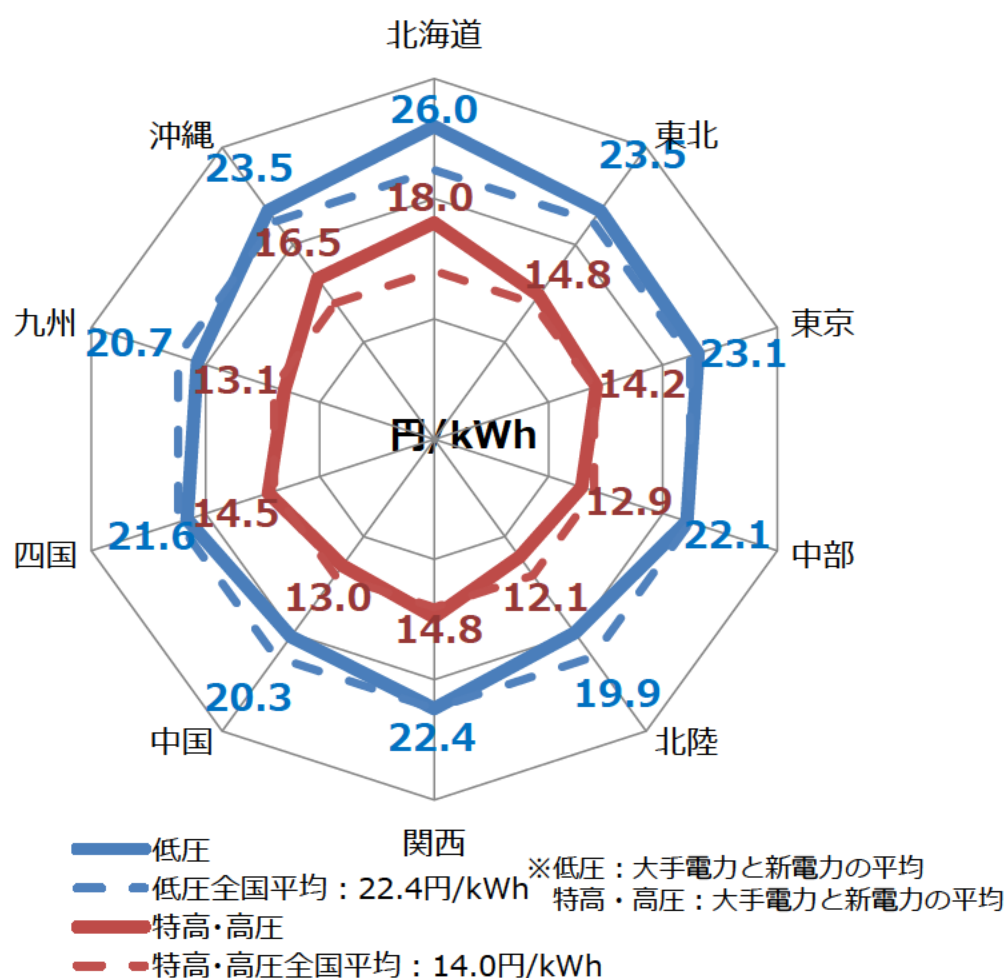
# 地域別・電圧別の電気料金水準

- 震災後に電気料金が最も高くなった2014年度と、本年6月における地域別・電圧別の電気料金水準を比べると、低圧及び特高・高圧のいずれの分野においても、若干ながら地域差は縮小傾向にある。

地域別・電圧別の電気料金水準（2014年度実績）



地域別・電圧別の電気料金水準（2017年6月実績）

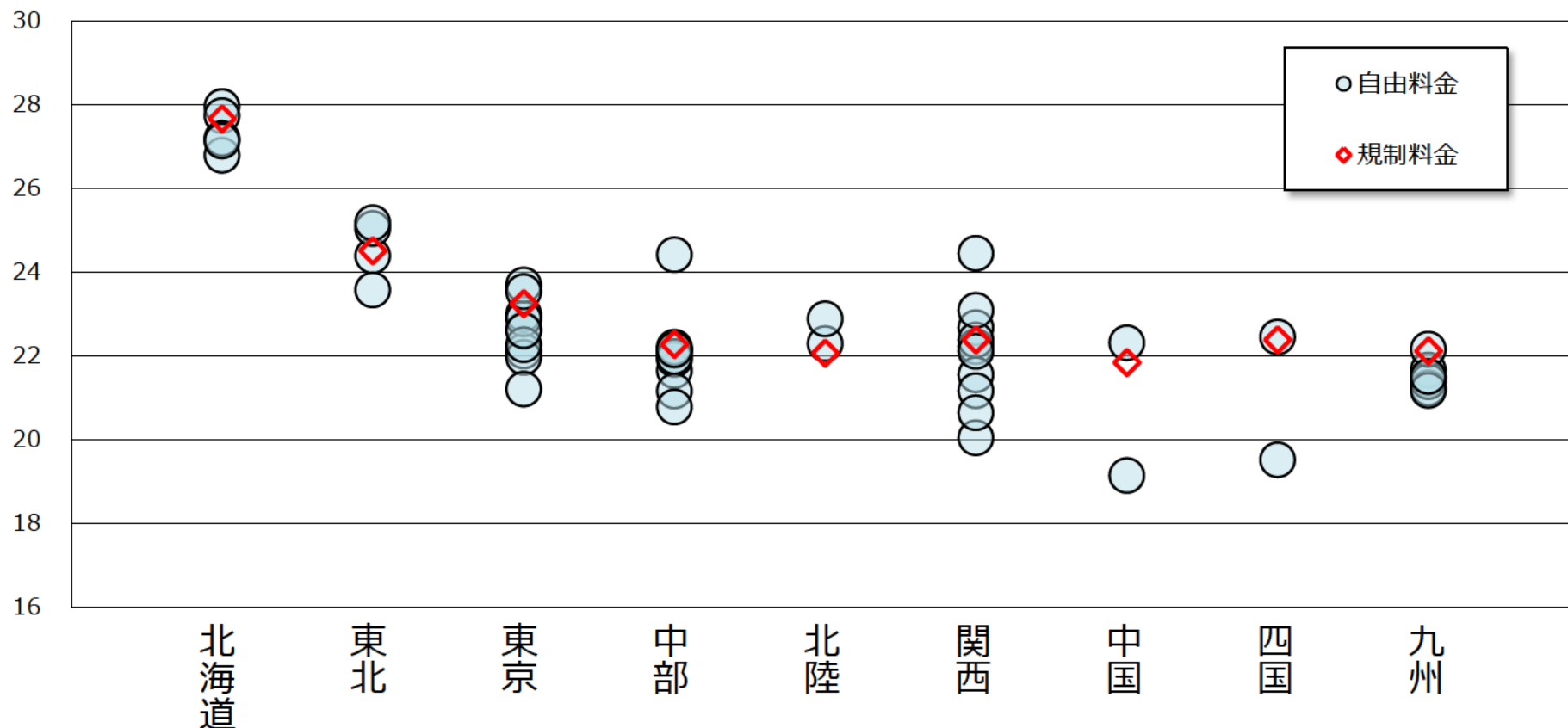


# 電気料金水準（地域別）

- 低圧分野における大手電力の規制料金と新電力の自由料金を比較した場合、新電力の料金水準は、ほとんどの地域で規制料金よりも割安なものとなっている。

各地域の規制料金と新電力自由料金※の単価比較（低圧電灯：2017年6月実績）

単価（円/kWh）



※ 低圧電灯の契約口数上位10社（当該地域みなし小売自由料金及び契約口数5,000件未満の社は除く）

# 大手電力による域外進出 ① (地域別)

- 低圧分野における供給区域外での大手電力(旧一般電気事業者)※の契約口数は、本年7月時点で約14万件(新規参入者への切替件数404万件的3.5%相当)。その大半は、東京・中部・関西区域に集中している。 ※ 大手電力(旧一般電気事業者)の100%子会社を含む。
- 特別高圧・高圧分野においては、域外進出の範囲が拡大しており、本年7月時点では、沖縄電力を除く全国9供給区域で域外進出が行われている。

## 域外における大手電力(旧一般電気事業者)の契約口数の推移

低圧	[件]					特別高圧・高圧	[件]				
	16年4月	16年8月	17年1月	17年3月	17年7月		16年4月	16年8月	17年1月	17年3月	17年7月
北海道区域	0	0	0	0	0	北海道区域	196	232	310	430	504
東北区域	0	0	175	173	213	東北区域	0	331	1,686	2,077	2,710
東京区域	206	2,044	44,969	70,698	83,780	東京区域	1,162	1,594	2,335	3,513	4,245
中部区域	0	7,755	19,638	18,201	21,458	中部区域	537	695	1,352	1,680	4,390
北陸区域	0	0	0	0	0	北陸区域	0	0	18	19	87
関西区域	58	18,887	26,610	24,036	35,848	関西区域	3,301	3,739	3,725	3,689	3,971
中国区域	0	0	0	0	8	中国区域	α	α	40	75	299
四国区域	0	0	0	0	0	四国区域	0	0	20	83	291
九州区域	0	0	0	0	0	九州区域	0	0	109	199	434
沖縄区域	0	0	0	0	0	沖縄区域	0	0	0	0	0
合計	264	28,686	91,392	113,108	141,307	合計	5,197	6,592	9,595	11,765	16,931

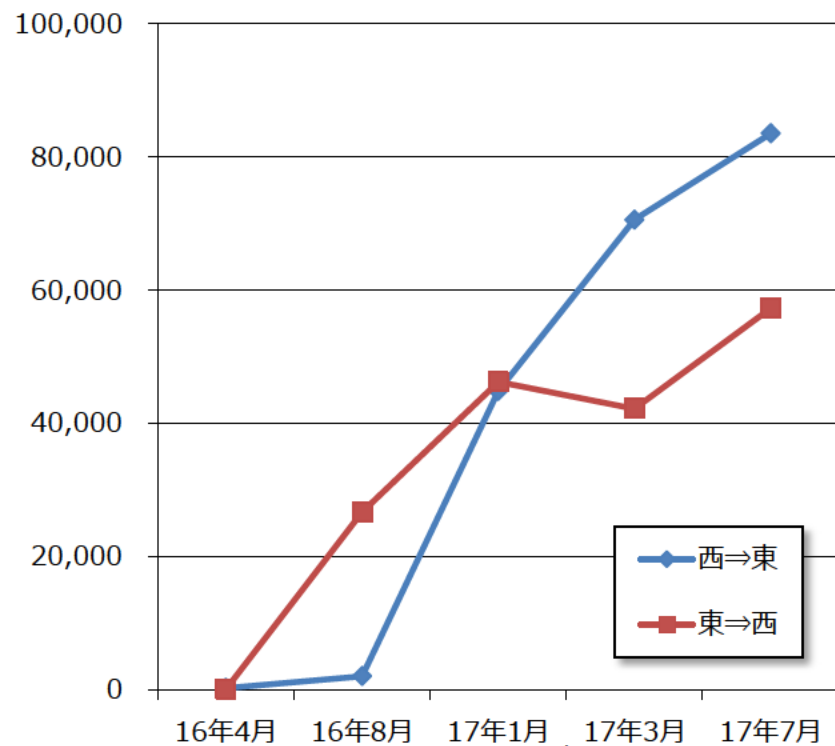
※ α: 1~9件

(注) 大手電力(旧一般電気事業者)の100%子会社を含む。

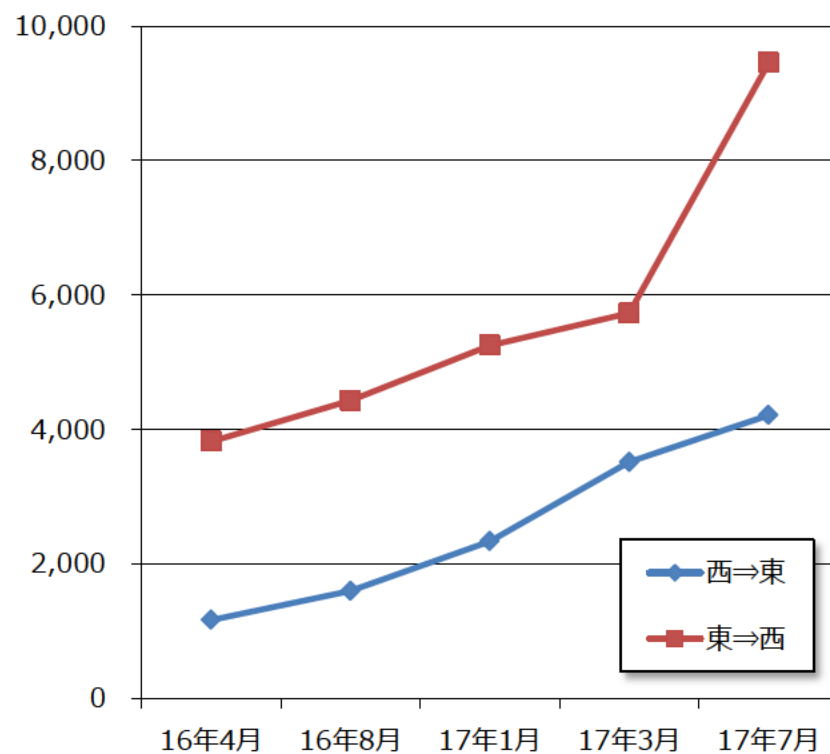
# 大手電力による域外進出 ② (東西比較)

- 低圧分野では、西側地域から東側地域への進出が堅調に伸びている一方、東側地域から西側地域への進出はやや緩やかになってきている。
- 特高・高圧分野では、東側地域から西側地域への進出が、特に今年度に入ってから伸びている。

大手電力の電源周波数地域を越境した域外進出状況 (低圧)



大手電力の電源周波数地域を越境した域外進出状況 (特高・高圧)



注) 東西は電源周波数で区分しており、「東」は50Hz地域の北海道、東北、東京地域、「西」は60Hz地域のそれ以外の地域